

子をもつ年齢は なぜ上昇したのか

情報不足

- 40歳が過ぎてからの妊娠が難しいということを知らない
 - ✓妊娠率の低下
 - ✓流産率の上昇
 - ✓さまざまなリスク
- 何十年か前までは、40歳代から生み始めようとする人は少なかった、ということを知らない

卵子が老化することを知らない

- 生まれたときから卵子がある
- 卵子も年を取っていく
- 30歳ころから徐々に妊娠しにくくなる
- 45歳過ぎると自然に妊娠することは、かなりむずかしくなる

→ 産婦人科医にとっては常識

ある44歳女性の声

- 36歳でパートナーと出会い、40歳で結婚後も仕事を優先
- その後不妊治療、体外受精を20回以上おこなって、700万円以上を費やしている
- 原因は卵子の老化以外に考えられないと医師から告げられ「ショックを乗り越えて奈落の底に突き落とされた」
- 卵子が老化することなんて誰も教えてくれなくて避妊をだけをしていた「若い頃の卵子を返して」

NHK「クローズアップ現代」より

- 不妊治療や不育症外来に40代の患者が増加している
- さまざまな理由で避妊していたが、流産や不妊に直面して、そのことを後悔している女性がたくさんいる
- メディアを通じて知識を得ている。芸能人が45歳で出産すると、自分もできると勘違いする
- 卵子の老化を社会の常識に

NHK「クローズアップ現代」より

75

50歳まで

「それでも子どもが欲しい」

40代 感の10年

仕事と両立に悩む
晩産化に対応した支援必要

若年や教育資金
足りるか悩む

平成23年10月3日 日本経済新聞

だが、40代にとって妊娠・出産の壁は高い。浜崎副院長は「妊娠希望の40代女性には、健康で生理も順調とよへ口ごして、楽観的に考えている。実際は自然妊娠しにくく、不妊治療をしても、42歳を過ぎると数%しか成果が出ない」と話す。

老後や教育資金 足りるか確認を

教育と老後資金「生活はつるちていく」と子どもをもつき夫婦は注意に住宅ローンも多い。「一の見積もりを作ってお金が足りるか確認する」という。

働く女性にとっての壁は さらに高い。職場では既に 両立に 産化に対応し

一定のポジションにあり、出産や子育てに伴う自己都合を言い出しにくい。親子育を頼みたくても、高齢で頼りにくいことが多い。キャリアと子育ての両立は、若い世代以上の困難が待ち構える。

Negativeな面ばかりの 記述ではなく

- たいていはpositiveな面についての記述がある
- 妊娠・出産リスクの増加に関しては、どこにも書かれていない

✓これをただ読むと、40歳でも簡単に2人授かると感じるのでは

神奈川県在住の女性(42)も40代の子育てで良かったと感じている。40歳で長女を出産し、今月第2子が生まれる。「2人目が落ち着いたら、在宅勤務で職場に復帰する。希望を聞いてもらえるのも、30代で培った信頼あってこそ」と話す。

↑
この方は、かなりラッキーな人だと思います



- フランスでは出産と育児に対するケアが厚い
- フランスの女性は出産と育児のために職場を離れるということがほとんどない

平成24年2月7日 朝日新聞

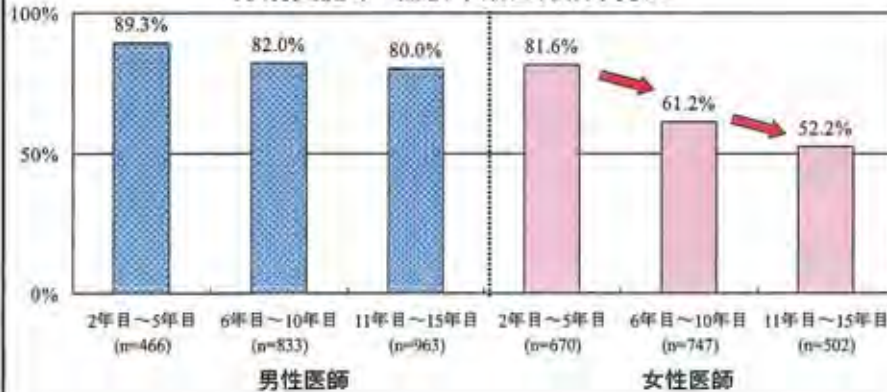
若いうちに妊娠しないのはなぜ？

- 自然妊娠して受診した、ある2経産の就労女性
 - ✓職場に「3人目」、って言いづらくて…また白い目で見られてしまう…
- 仕事と子そだての両立
 - ✓大変さばかりが強調される、子をもつことはこんなに楽しいのに
 - ✓日本では、まだまだ、女性が子をもちたらくことを、社会が容認してくれない

経験年数5年ごとの分娩実施率—男女別 女性医師の継続的就労支援委員会調査より

男性医師は8割台で推移。女性医師は経験年数が増えるごとに分娩実施率は減少し、11年目～15年目では約52%まで落ち込む。

分娩実施率-経験年数区分別、男女



日本産婦人科医会HPより

公益社団法人
日本産婦人科医会

- HOME
- お知らせ
- あしざつ
- 女性情報誌
- 医会について
- 事業内容
- 会員の方
- 女性医師支援
- 役立つ図表集**
- アンケート
- サイトマップ
- お問合せ

役立つ図表集

- 「妊産婦死亡原因」に関する妊産婦死亡に対する諸
- 女性医師活躍推進のため、平成22年度厚生労働「女性医師継続防止」2011-2010掲載
- 「妊産婦死亡原因」に関する妊産婦死亡原因の検討 2010年度の妊産婦死亡原因 (1)ハイタルサインの重
- (2)妊産婦の特殊性を有
- (3)産科出血の原因に
- (4)産科出血の原因として
- (5)産科出血の原因として
- (6)妊産婦死亡が発生し
- 「望まない妊産婦死亡」
- ・平成22年度版

「役立つ図表集」
をクリック

妊産婦死亡原因
働きやすい職場づくり



パンフレット
妊娠・出産・育児中の女性医師が
働きやすい職場づくり
周りのスタッフもいきいきと
働きやすく

働きやすい職場環境を 整えるための方策を提示

- Step 1：勤務環境の見直し
✓チーム制，勤務時間など
- Step 2：妊娠・出産・育児中の女性医師
への具体的な支援
✓保育園，勤務形態，駐車場優先利用など
- Step 3：すでに効果をあげている病院
✓ベビーシッター制度，保育所への送迎支援…

http://www.jaog.or.jp/diagram/notes/jyoseiDR_2008.pdf

女性医師のキャリアデザイン



- どんなライフステージが待ち受けているのか
- どう考えどう乗り越えてきたか，などの先輩の声を掲載
- 男性にも参考になると思います

http://www.jaog.or.jp/diagram/notes/jyoseiDR_2010.pdf

女性のためだけの 対策ではありません

- 女性にとって働きやすい職場は、すべてのスタッフにとって働きやすい
- 女性の子育てだけではない
 - ✓男性だって子どもの行事に出るべき
 - ✓本人の健康問題
 - ✓家族の急病
 - ✓親の介護

スタッフ全員が常にフル稼働
できるとは限りません

産婦人科医だからこそ

- 子どもをもち仕事をするのが当たり前であるべき
 - ✓家庭環境も健康状態もさまざま
 - ✓多様な事情に対する柔軟な対応
- 妊娠出産を後回しにすることにはデメリットが大きいことを理解し、社会にも啓発していくべき
- 自身は、結婚出産後も仕事を常勤で継続するモチベーションを持つべき
 - ✓子育て経験は仕事に大きなプラスとなる

おわりに

- 卵子は老化し、妊娠には期限があることを知る
- 高年女性における不妊治療の困難さや、妊娠分娩リスクの現実の啓発
- 若くして子をもつ気になるような、妊娠子育てに関する社会全体のあり方の変革

多方面からのさらなる改善努力が必要！